

「野神小学校の棒踊り」伝承活動の取組

1 学校名 志布志市立野神小学校

2 学年・人数 小学4年生から6年生（計51人）

3 場所・日時

(1) 練習の場所・日時

野神小学校体育館（7月）、運動会前の体育学習（9月）

(2) 発表の場所・日時

野神小学校秋季大運動会（9月）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

早馬棒踊り（はやまぼうおどり）

(2) 由来

歴史についての正確な記録は残っていないが、藩政時代から伝承されてきたと言われている。太平洋戦争中は一時中断されていたが、当時の草野・宮下集落の青年団が中心となって昭和23年頃に復活させた。途中、青年団の人数の減少から棒踊り自体の存続が危ぶまれたが、早馬棒踊り保存会を立ち上げ、それ以降一度も途切れることなく現在に至っている。

この行事は、農耕などに使っていた牛馬を祀るためのもので、集落内の小高い丘にある「早馬どん」の石碑の前で踊りを奉納する。その後、集落内の数カ所で踊りを披露する。

野神小学校では、運動会の高学年の表現プログラムとして、4、5、6年生が合同（51名）でこの棒踊りを踊っている。郷土の素晴らしい伝統芸能を、小学校でも残していこうとスタートし、始まってから約20年になる。体育の時間に、保存会の方々にも来校していただき、指導を受けながら、毎年の運動会で保護者や地域の方々に披露している。

(3) 構成等

3尺棒を持った3人と6尺棒を持った3人が2直線を成し、計6人が1組となり踊る。曲は8番まであり、同じ動きを繰り返す。頭に鉢巻、上には浴衣と3色たすき、下には袴下と脚半を身にまとい踊られる。

運動会での児童は、鉢巻、法被、3色たすきを身にまとい、大きなかけ声を出しながら踊っている。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年9月の運動会の練習の時期に、棒踊り保存会の方々（約10名）に来校していただき、早馬棒踊りの踊り方を指導していただいている。野神小学校では、この棒踊りを表現プログラムの1つとして位置付けており、体育の授業でも練習を行っている。3学年が合同で行うという利点を活かし、毎年の6年生が4、5年生に踊り方を教えるという縦のつながりができており、棒踊り保存会の方々の指導と合わせて、地域で伝承していく体制が整っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら棒踊りを継承していくために工夫している点は、毎年、棒踊り保存会の方々に来校していただき、児童への指導をお願いしている点である。毎年、約10名の方々が、お忙しい時間をぬって来てくださっている。また、体育の表現運動として授業に組み込んでいる。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



<保存会の方々の指導の様子>



<秋季大運動会での発表>

8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

(児童の感想)

今までの先輩たちと同じように、棒踊りを運動会で踊ることができて、とてもうれしかったです。自分たちの学年だけでなく、他の学年も一緒に練習するのは、とても楽しかったです。保存会の方々の本場の踊りも見ることができた時は、とても感動しました。

(保護者の感想)

野神小校区に伝わる棒踊りを、子どもたちが一生懸命踊る姿に、とても感動しました。今年は、自分の子どもが6年生ということで最後の運動会だったので、これまで以上に、楽しくそして感慨深く見させていただきました。

(保存会の方々の感想)

地域に残る郷土の棒踊りを、自分たちの後輩である小学生に指導・伝承できることを

大変うれしく思っています。子どもたちに教える棒踊りは、保存会で引き継いでいるものを簡略化した部分もありますが、踊り方だけでなく、郷土を愛し、守っていこうという心も教えていきたいと思っています。毎年の子どもたちへの指導の時間を楽しみにしています。

(教職員の感想)

これまで、子どもたちと一緒に棒踊りの練習を重ねてきました。地域の伝統がしっかり残っていることに驚きを覚えました。そして、過去の映像や保存会の方々の踊りを実際に見せていただき、どうすればきれいな踊りになるのか、また、保存会の棒踊りに近づけるのかということを考えながら、子どもたちに指導してきました。本番の運動会で、子どもたちの踊る姿を見ると、これまでの子どもたちの頑張りを思い出し、とても感動しました。